

令和元年度補正予算（総額45億2,557万5千円）を可決 ごみ対策調査特別委員会・総合計画等検討特別委員会を設置

6月
定例会

令和元年第1回6月定例会は6月4日から会期25日間で開催し、6月28日に閉会しました。

この間、市長提出の議案24件及び報告12件を審議し、最終日の6月28日には、議案などの採決を行いました。

また、6月10日及び13日の両日、議員13人が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に2ページから7ページに掲載しています。

自民クラブ

堀江 幸二 議員



1 (一般質問)
通学路の安全対策について

子どもたちを守るため
安全な通学路を！

問

子どもたちが登下校中に予期せぬ事態に巻き込まれ犠牲となる事件・事故が全国的に相次いで発生している。専門家によると、一連の事故の中には、ガードレールなどがあれば被害を防止することができた事故もあると指摘しているが、市内の通学路には、ガードレールなどのない危険な交差点が数多く見受けられる。このような中、子どもたちの安全を守るため

に通学路の安全点検や安全対策が必要と思うが、どのように考えているのか。また、通学路の安全確保には、そこが通学路であることを知らせる分かりやすい路面標示が必要と思うが、どのように考えているのか。

更に、学校敷地外における犯罪や事故から子どもたちを守るには、市民一人一人が見守りの意識を持ち、地域全体で子どもたちを守ることが重要である。危険な事象が起こった場合や起こりそうな場合、教育現場に対する迅速な情報提供、また、警察やPTAなど地域全体で情報共有を図る必要があるが、どのような取組を行っているのか。

答

通学路の安全点検は、小学校、警察、道路管理者などで組織する西条市通学路安全推進連絡協議会が毎年7月から8月にかけて実施している。平成30年度は点検の結果、100か所の危険箇所が抽出され、その対策として横断歩道の塗り直しや交差点付近のカラー舗装などを行ったほか、小学校周辺の歩道のな



通学路のゾーン30対策

い通学路については、平成30年度から集中的に外側線や横断歩道、停止線の引き直しといった安全対策を行った。更に、路肩のカラー舗装で車道を狭く見せて速度を抑制したり、規制速度を30キロ以下にするゾーン30を設けているほか、速度抑制効果のある停止線や横断歩道などを正門前に設置したりしており、今後も引き続き、効果的な路面標示について協議していきたい。

学校敷地外における危険箇所の防犯対策としては、西条地区防犯協会が企業や個人などからの寄附を活用して、犯罪の発生が懸念される場所に防犯カメラを設置しており、平成30年度末現在の設置数は45か所、89基となっている。

また、青色防犯パトロール隊と地域セーフティーパトロール隊が、地域のパトロールを実施し、登下校中の児童の安全を見守っている。

子どもたちが犯罪に巻き込まれないよう、迅速な情報共有にも努めており、小・中学校や警察から不審者情報を受けた場合は、教育委員会からEメールとファクシミリを利用して、市内小・中学校、PTA連合会、防犯協会、青少年育成センターなどに伝達している。安全で安心なまちづくりには、市民一人一人が高い防犯意識を持ち、地域内が結束して連携することが大切であり、今後も警察や防犯協会などと連携しながら取り組んでいきたい。